

この本、
いかがですか？

“ポジティブな出産体験とは何か？ ケアを見直すきっかけをくれるガイドライン”

評者

増澤祐子

東京医療保健大学 千葉看護学部 助教

20

18年に、22年ぶりの改訂となるWHOの出産に関するガイドライン“WHO recommendations: intrapartum care for a positive childbirth experience”が出版された。私は、タイトルの“a positive childbirth experience”という言葉を見て、ガイドラインの作成者たちは、どのような思いを込めてこのタイトルを付けたのだろうかと、考えを巡らせたことを覚えている。その出版から3年後の2021年1月、日本語版翻訳書である『WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア』（以下、本書）が出版された。待ちに待った日本語版の出版であった。

世界の人口における英語のネイティブスピーカーはたった6%とされる。英語で書かれた情報を多言語に翻訳することで、多くの人に理解、活用してもらうことができる。多くの日本人がWHOのガイドラインの内容に触れるためには、日本語版翻訳書の出版はとても重要である。本書を手に取り、内容に触れることで、日本の助産ケアにこれからどのような変化がもたらされるだろうかと、心が躍った。それと同時に、このガイドラインの日本語訳を担当してくださった、分娩期ケアガイドライン翻訳チームの皆さんに、心から敬意を表した。私自身、コクランレビューのエビデンスを日本語で広める活動に5年以上関わっており、原文の意図を損なうことのないよう、そして、日本のコンテキストに合った用語や注釈を使用しながら、分

かりやすい日本語にすることは簡単ではないと経験から知っているからである。

200ページを超えるこのガイドラインには、出産をする女性にとっても、その女性をケアする医療従事者にとっても、とても大切な多くの情報が盛り込まれている。56項目の推奨項目に対して、こんなにページ数が多いことには理由がある。それは、ガイドラインの透明性を担保するために、GRADE (Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation) アプローチという方法を用いて作成されているためである。日本ではGRADEアプローチを用いて作成されたガイドラインはまだ少ないものの、本書では、用語だけではなく視覚的にも推奨内容が分かりやすいように工夫がなされている。そのため、GRADEアプローチを用いたガイドラインを初めて手に取る方にも、どのような内容について、どのような根拠をもとに判断がなされたのかが理解しやすくなっている。

どのようにして推奨を導き出したのか、推奨を決定する際に考慮した項目は何か、介入の効果として用いたエビデンスについては、第2章に記載されている。読み飛ばしてしまいがちなこの章も、ぜひお読みいただきたい。介入の効果に用いられたエビデンスは、WHOのガイドラインのために、多くのコクランレビューワーがコクランレビューの更新、または執筆を行っている。私自身、この出産に関するガイドライ

WHO 推奨 ポジティブな出産体験の ための分娩期ケア

分娩期ケアガイドライン翻訳チーム 訳
定価 3520 円(本体 3200 円+税 10%)
B5 判/医学書院/2021 年



ンではない、別の WHO のガイドラインの改訂のため、たった 1 本であるが、コクランレビューの更新を経験した。限られた期間の中で、コクランのレビューグループだけではなく、WHO からのレビューコメントも受けて、修正を重ね、コクランレビューの更新の出版に至った。ガイドラインの推奨内容の決定に欠かさないエビデンスにも、多くの方の努力と思いが積み重なっている。

第 3 章の各項目の「注釈」には、どのようなことを目的としているのかが記載されているが、それに加えて、ぜひ、「エビデンスの要約と考察」もお読みいただきたい。「価値」や「受け入れやすさ」の項目では、質的研究の系統的レビューの結果を用いて考察されていることが大きな特徴である。これらは、GRADE アプローチを用いたほかのガイドラインでは、患者の意向や希望を調査した研究が乏しく、記載が十分とは言えない項目である。これらの項目の

記載が十分になされているのは、このガイドラインの注目すべき特徴の一つではないだろうか。

数ページでありながらも、第 4 章には、このガイドラインの作成者の思いが詰まっている。「単に死なないというレベルではなく、力強く健康に生きるというレベル」を目標としたケアモデルをどう実施するか、さまざまな立場での考慮事項も記載されている。

また研究者にとっては、今後さらなる取り組みが推奨される研究テーマが記載されている第 5 章は見逃せない。

本書は、細かな注釈が記載されているため、この 1 冊で多くの情報が入手できるように工夫されている。「力強く健康に生きる」ために、「ポジティブな出産体験」となる分娩期ケアの普及のために、ぜひ、多くの医療従事者、政策決定の関係者、出産を予定される方に手に取っていただきたい一冊である。

